

## 平成27年度津山工業高等専門学校有識者懇話会記録

1 日 時 平成27年11月30日(月) 13時30分～15時30分

2 場 所 津山工業高等専門学校 管理・一般科目棟2階 会議室

### 3 出席者

#### 外部委員

学校法人就実学園理事長	千葉 喬 三
美作大学長	船 盛 茂
津山市長	宮 地 昭 範 (御欠席)
岡山県美作県民局長	村 木 正 司
美作地区中学校長会会長	野々上 正 成
津山商工会議所会頭	松 田 欣 也
津山圏域工業会会長	友 末 誠 夫
津山高専同窓会会長	末 澤 俊 一
人形峠環境技術センター所長	竹 中 信 吾

#### 学校関係者

校長	則 次 俊 郎
教務主事(副校長)	植 月 唯 夫
学生主事(校長補佐)	大 田 肇
寮務主事(校長補佐)	佐 藤 紳 二
専攻科長(校長補佐)	藪 木 登
地域共同テクノセンター長(校長補佐)	小 林 敏 郎
国際交流委員会委員長	小 西 大二郎
機械工学科長	福 田 昌 准
電気電子工学科長	掛 橋 英 典
電子制御工学科長	山 本 吉 範
情報工学科長	大 平 栄 二
一般科目(文科系)学科長	稲 田 知 己
一般科目(理科系)学科長	吉 田 英 治
教育システム点検委員会委員長(代理)	竹 谷 尚
事務部長	森 原 良 治
総務課長	田 邊 鉄太郎
学生課長	余 村 豊
総務課課長補佐(総務担当)	秋 山 佳 子
総務課課長補佐(財務担当)	大 野 勝 久

学生課課長補佐	重松宏明
学術・社会連携推進事務室長	小林茂男
総務課総務係長	土屋信雄

#### 4 議事等

- 一 開会
- 二 校長挨拶
- 三 有識者懇話会委員及び津山高専出席者の紹介
- 四 日程説明
- 五 座長選出
- 六 津山工業高等専門学校の現状と課題説明
  - 津山工業高等専門学校の現状と課題（校長）
  - 進化し続ける技術者育成への教育環境の整備（教務主事）
  - 学生の教育環境を支える（学生主事）
  - 寄宿舍 北辰寮について（寮務主事）
  - 専攻科の現状と課題（専攻科長）
  - 地域共同テクノセンターの活動（地域共同テクノセンター長）
  - 津山高専における学生の国際化への取り組み（国際交流委員会委員長）
- 七 質疑応答・意見交換
- 八 有識者懇話会委員による評価
- 九 座長挨拶
- 十 校長挨拶
- 十一 閉会

#### 5 質疑応答・意見交換等

##### 【質疑応答】

**Q 改組後の1学科体制においては、2学年から各系に分かれるということで、自分が何に向いているか考えた上で選択できるのはよいと思うが、どんな方法で系の決定を行うのか。**

A 1年間いろいろ勉強してもらい、年間4回程度のアンケートを実施し、担任とのコミュニケーションをとりながら、最終的には成績で判断したいと考えています。ただし、推薦で入学した学生について、最初から希望する系がある場合はそれを優先します。

**Q 専攻科の改組についてはどうか。先進科学系をつくったのでそれに対応する専攻をつくるのがよいのではないか。**

A 改組については、検討中で、これから議論を深めていきたいと思っています。課題

のひとつとして、先進科学系の出身の学生にも学士の学位を取得させたいが、どの分野が該当するか検討しています。

**Q 学科改組は中学校教員や生徒に理解されているか。学習塾の先生が生徒の進路に影響を与えている部分も大きくなっているようだが、学習塾の理解はどうか。**

A 概ね、好意的に捉えていただいていると認識している。ただ、それがそのまま生徒のみなさんに伝わっているかどうかは把握しきれいていません。各中学校の先生方の進路指導の違いにより、伝わり方の温度差はありそうな感じはしています。

学習塾の先生方にも同様にきちんと説明しています。細かいところの質問もあり、そういった面では理解をしていただけているのではないかと考えています。

**Q 学科改組の取り組みは良いと思うが、アドミッション・ポリシーの理解、入学後1年間同じ勉強をした後に各系に分かれる仕組みなど、中学校教員がどこまでどのように理解し、入試制度と関連させて生徒や保護者にきちんと伝えられるか難しいかもしれないがそのあたりをどう解決していくか。また、これまでの学力入試の傾斜配点をどう扱うか、国際化により英語科目をどこまで重要視するかについてお尋ねしたい。**

A 推薦入試については詳しく説明しており、ある程度理解いただけていると思っています。学力入試は一括募集で行うことなど大まかなところしか説明できていないのが実状で、今後、より理解していただけるよう説明をしていきたいと思っています。

英語についてですが、本校においても非常に重要視しており、TOEIC、GTECなどの外部の試験を取り入れながら、客観的な能力評価を行う仕組みに変えていっているところです。

来年度は高校で行われているGTECを導入し、高校生と高校年齢の高専生の比較ができるようにし、高専生は英語が弱いと言われているようですが、それが風評なのか事実なのかきちんと把握しながら、一步一步、システムの中で実力を上げていこうというカリキュラムを構築しつつあるところです。

**Q 専攻科生に対して、研究不正への倫理教育をどのように行っているか。**

A 講義や各研究室単位で指導教員を通じて行っている。本科では、「工業倫理」の授業により行っている。

#### 【意見交換・提案等】

●P D C Aのplanについて、学科改組の取り組みは良いものできていると思う。今後は、checkについて、例えば教育経済学でいう投資効果と収益率のような、科学的な評価を示すことができるようになったら、社会に対してのアピール力があがると思うので、この点を充実されたらどうかと思う。

- 先端技術が進歩していくことを超えて、ベースとなる技術力を身につけることと、コミュニケーション力や信頼を得られる力など人間としての力を両輪として育ててほしい。
- 寮生活を活かして人間形成をしてほしい。
- 先ずロジカルな技術英語を身につけ、その後に感情や情緒などを教えていくのがよい。
- 英語を身につけるには、「聞く」ことが重要なので、ビデオ教材などを使って、聞き流すことをやってみてはどうか。
- まだ敷居が高いと思われる部分があり、もっと市民に開かれた高専を目指してほしい。また、津山にとらわれず、県北全体において、ものづくりの後押しをしてほしい。

## 6 挨拶

### 【座長】

高専の、社会における教育機関の中での位置づけは、これまで揺れ動いてきていて、一時は不要論まで出かねない社会情勢もあったが、今では高専のような教育機関が非常に重要であることが認識されている。

学科改組により、51ある高専の中で先端を行こうとする、また社会のニーズに応じていこうとする姿勢は、意識の上で素晴らしいと思う。やったことのないことをやろうとしているのだから、大変だと思うが頑張ってください。

岡山県に津山高専という余所には無い教育機関を持っているという誇りを共有したいと思っている。

### 【校長】

本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

入試の方法や評価の問題など、これからとは思いますが、皆様のお話をお聞きし、岡山県を代表し、なおかつ全国を代表する高専へ発展していきたいと心から思っております。

今後ともご支援をよろしくお願いいたします。